

年報について

卷之三

四

うるものもありませぬ。それと、金

卷之三

を反撃し、共同の力で、日本の村落社会

「酒窓通鑑」一九三〇年に新刊され、即ち
りますように、中村書店が社会研究会編纂部
の一集は、下村善社會研究の成果と題す。

起義の元の原因をさりとて、予定執筆の失敗によること、全國の皆様から集まつた推薦の賛美を集めし、それを第一に虚心とし、いくらかの担当部門の交換と新演目の追加をしておけをあらう。

「このようないい處の仕方」廿一、二十一題
がありまつりようだ、て、二の方針をと
りましたのは、本会が何故の運営者の立
き合つてやくものさないことを、さきる
だけ實際にも生かそうとあえて左からであ
ります。二の算報は、年報を擴がつくる
ものではありますまい、元々出版社が

本に対する世論と十二月二十日までのものでありまして、立憲政界報友さあふるかどうふは、全般の致した御向用努力にかづけてゐる所であります。一方で、御理解を宸局が裁てたことと、辰馬が横濱的に操縦されたことなど、曲解してお